

公益財団法人にいがた文化の記憶館

平成30年度 事業計画

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

展示事業

[概略]

年間の開館日は250日間、休館日は115日間。展示替えのための休館日は、前年度に引き続き、各展示前に11日間を充てたい。

平成30年度は、29年度の企画展示が4月15日で終了したのち、4月27日から企画展示5本と常設展示（前後期に展示替え）を計画。春と秋の企画展示は、平成31年度に開催する国民文化祭のプレイベントに位置づけされる予定。

30年度中に、近年、文化功労者に認定された新潟県人のパネルを製作し、受章者コーナーにて追加展示したい。

イベント事業

[概略]

平成30年度は企画展示の協力顕彰館や団体などからゲストを招いて講演会など、年間数本を予定。

調査及び研究・研修事業

[概略]

平成29年度に展示室内で紹介している文化人を中心とした基礎データが作成した。この基礎データを基にデータベース構築、さらなる調査を進めたい。

あわせて、館運営の質を向上させるため、また他館との連携を強化するために、職員研修の機会を拡充したい。

教育普及事業

[概略]

月に一度の解説会「月いちレクチャー」のリピーターと新規顧客を増やすため、企画展示と連動して開催予定。特別講師を招いてのレクチャーを計画したい。

講演会や副読本を活用する出前授業を知ってもらうためPRを強化していく。

(1) 学芸員等による解説会「月いちレクチャー」

開催は、毎月第4土曜日 午後2時から午後2時30分（原則）

(2) 講演会など

学校や公民館などの教育機関や各種団体の要請により、館長、事務局長、学芸員

が対応（随時受付可）。その際、当館の企画展示 PR や、副読本や関連図等の販売なども実施したい。

平成 29 年度からの継続事業として、神林館長の美術講座「芸術学アラカルト～西欧版 奇想の系譜」（全 6 回）を 30 年 4 月から 7 月にかけて開催予定。本講座は新潟日報夕刊の「おとプラ倶楽部」との連携事業のひとつ。

（3）副読本を活用した講演会、出前授業など

平成 29 年度に、副読本『みんなで伝えよう いがた文化の記憶』（平成 27 年 7 月発行）のパンフレット（A3 二つ折り、カラー）を作成。新潟県校長会および新潟市校長会にご協力いただき、県内自治体立中学校に進学する新 1 年生に配布することとなった。30 年度はパンフレットを生かして、講演会や出前授業の PR に努めたい。あわせて、副読本を活用してもらうため、具体的な指導計画書などを作成し、県内の中学校に提案していきたい。

27 年度に続き、新潟県立教育センターの既存事業「学ぼう新潟の知恵」に職員が登録。学校の要請に応じて副読本を活用した出前授業に対応する。

30 年 1 月から、新潟日報の中学生向け新聞「ふむふむ」（毎火曜発行）に副読本掲載文化人を中心とした連載「なるほど偉人県人」を開始。4 月以降も引き続き掲載の予定。

連携・交流事業

[概略]

サテライト展示（PR 出張展示）への参加促進を進めるにあたり、27 年秋から開始したテレビやラジオ、新聞での広報展開を活用していきたい。その際、県内顕彰施設および団体との具体的な連携がとれるよう、広く意見を聴取し、連携の仕組みづくりに反映させたい。

新潟日報夕刊「おとプラ倶楽部」と連携して、おとプラ倶楽部会報にて県内顕彰館を紹介する予定。

（1）第 5 回にいがた文化ネットワーク協議会の開催

平成 31 年度の国民文化祭を視野に入れ、顕彰施設及び団体との連携・交流のあり方を見直し、平成 30 年夏季までには、第 5 回ネットワーク協議会を開催したい。

（2）機関誌「にいがた文化 vol.4」の発行

平成 29 年度の「にいがた文化 vol.3」は、30 年 1 月末に完成（広告掲載は 17 社）。30 年度の「にいがた文化 vol.4」でも、当館の事業報告と、県内顕彰施設や

団体が実施する次年度の催し紹介を予定。広告掲載も継続していきたい。

顕彰人物選定委員会

【概略】

29年度は、県内出身またはゆかりの文化人の基礎データを作成した。30年度も、引き続き、データ構築を進めたい。

顕彰人物選定委員会の立ち上げや発足については、データ構築の進捗状況を見て、31年度以降の発足を目指したい。

【参考資料】

別紙1「平成30年度 事業計画案（詳細）」

別紙2「平成30年度 にいがた文化の記憶館 企画展示スケジュール・開館カレンダー」